

DISPLAY WEEK SAN JOSE 2022

インサイド・ディスプレイウィーク

2022年 | 第一号 春

旅の再開

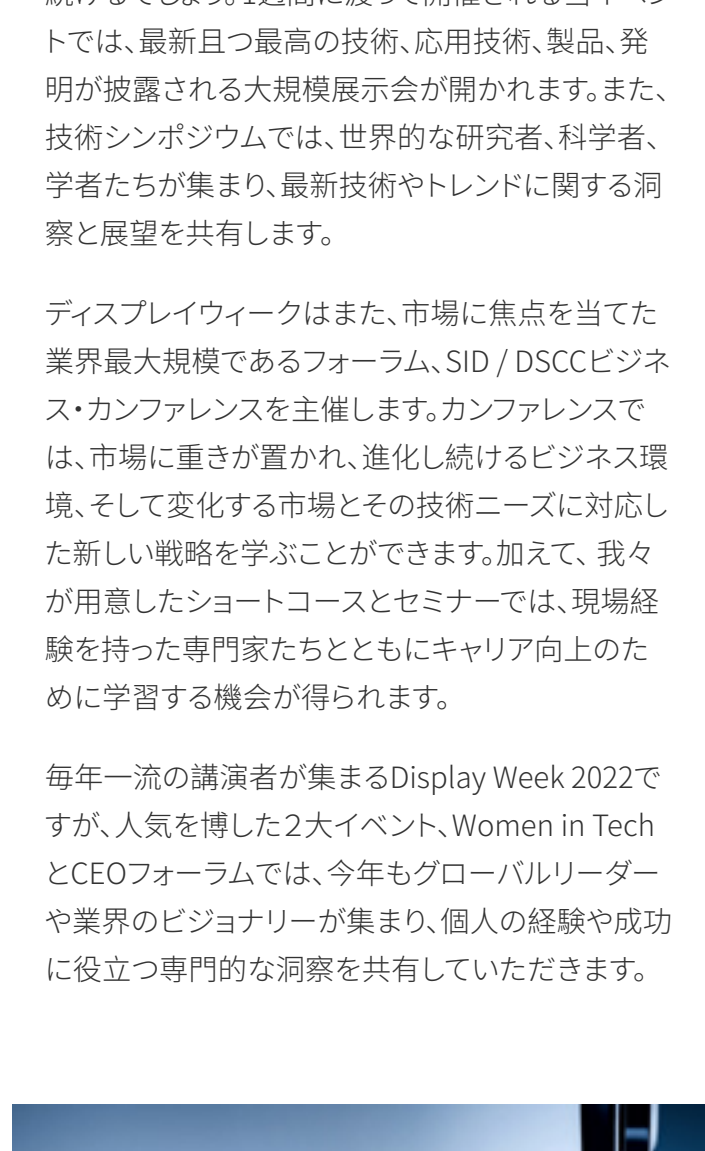
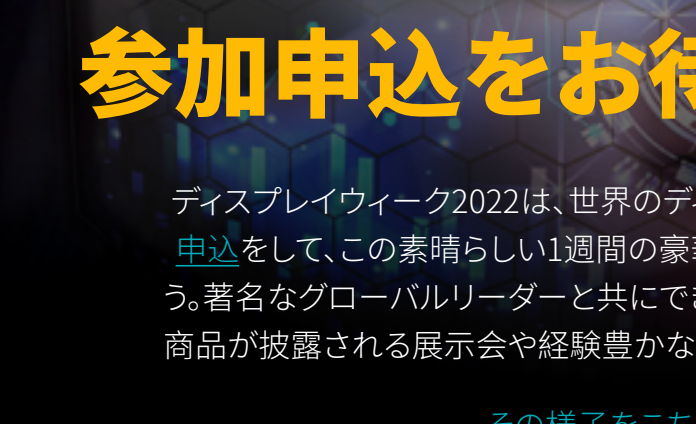
ディスプレイウィーク2022がオンサイト(対面)イベントとして、2022年5月8-13日に開催されることをお知らせいたします。参加申込のサイトは[こちら](#)から!

“2年連続で功を奏したバーチャル開催を経て、世界の技術の中心地であるシリコンバレーにて皆様とお会いできることはとても嬉しいですね。”とラデュ・リート博士(SIDマーケティング部門代表)は思いを語ります。また、“ウィズ・コロナの現状を踏まえて、皆様が安心してイベントを楽しんでいただけるように必要な安全対策を万全に整えます。”

オンサイト開催に切り替わったことに加え、1962年設立以来ディスプレイ業界の発展に尽力してきたSociety for Information Displayの60周年を記念する年でもあります。設立当時は小規模の団体でしたが、今では著名な科学者、エンジニア、技術者、経営幹部を巻き込んだ団体へと成長を遂げました。そして現在、コンセプト化から商品化の過程までに関わり、電子ディスプレイと多様な視覚情報技術の伝播に専念した唯一の組織として業界の繁栄を支えています。その存在感と権威性は年々高まっています。この取り組みの一環として、SIDは1963年以来、毎年、国際シンポジウム、セミナー、展示会、すなわちディスプレイウィークを主催しています。

しかし、これらだけではありません!ディスプレイウィークは、ZONEの本拠地でもあり、スタートアップ企業、大学、研究機関などの団体が集まり、まだ商品化されていない製品の概念実証と技術プロトタイプ等が展示されます。

ディスプレイウィーク開催まで3か月を切りました!参加申し込みをしてみたいはかたでしょうか。皆様とサンノゼでお会いできることを心待ちにしております。



そして、59年目を終るディスプレイウィークは、1万人の参加者を記録した昨年度が物語るように、これからも、業界に携わる人々から希望される“最新”を提供する電子ディスプレイ業界における最高のグローバルイベントであり続けるでしょう。1週間に渡って開催される当イベントでは、最新且つ最高の技術、応用技術、製品、発明が披露される大規模展示会が開かれます。また、技術シンポジウムでは、世界的な研究者と科学者、学者たちが集まり、最新技術やトレンドに関する洞察と議論を共有します。



ディスプレイウィークはまた、市場に焦点を当てた業界最大規模であるフォーラム、SID / DSCCビジネス・カンファレンスを主催します。カンファレンスでは、市場に重きが置かれ、進化し続けるビジネス環境、そして変化する市場と消費者ニーズに対応した新しい戦略を学ぶことができます。加えて、我々が用意したショートコースとセミナーでは、現場経験を持った専門家たちとともにキャリア向上のために学習する機会が得られます。

毎年一流の講演者が集まるDisplay Week 2022ですが、人気を博した2大イベント、Women in TechとCEOフォーラムは、今年もグローバルリーダーや業界のビジョナリーが集まり、個人の経験や成功に役立つ専門的な洞察を共有していただきます。

参加申込をお待ちしております!

ディスプレイウィーク2022は、世界のディスプレイ業界がつながる場所です。今参加申込をして、この素晴らしい1週間の豪華なイベントを経験してみたいはかたでしょうか。著名なグローバルリーダーと共にできる数々のイベントには、選りすぐりの技術や商品が披露される展示会や経験豊富な専門家による学習機会が用意されています。

[その様子をこちらからご覧ください。](#)



- ✔ サプライチェーン全体の出展者 (出展団体リストはこちら)
- ✔ 国際技術シンポジウム (詳細を下記をご参照ください)
- ✔ ネットワーキングイベント
- ✔ 基調講演者
- ✔ ビジネス・カンファレンス
- ✔ スペシャルイベント/パネルディスカッション、フォーラム
- ✔ ディスプレイ計測学を含むショートコース/セミナー
- ✔ LZone (歴代の受賞者は[こちら](#)から)
- ✔ ビールズパイオニアワード (参加者皆様の投票で決まります)
- ✔ 60周年記念セッションと社イベント

これら全てのイベントがシリコンバレーの中心地に位置するサンセット・スクエア・コンベンションセンターで開催されます。予約が埋まる前にお早めの手続きをお勧めいたします。参加申込は[こちら](#)から、ホテルの予約は[こちら](#)から可能です。

技術シンポジウムが照らす光



ディスプレイウィークが主催する国際技術シンポジウムは、今年最も期待されているイベントの1つです。この4日間のシンポジウムは、著名な講演者たちからの発表と何百ものポスター発表を特徴としています。ここでは、今日最も重要視されている技術の裏側に光を当て、業界のこれから目を向けることを目的としています。

今年の**スペシャルトピック**は、急速な発展を見ている以下の分野をカバーしています。

- ✔ 超現実ディスプレイ (AR / VR / MR) (2022年度初)
- ✔ 屋外ディスプレイ (2022年度初)
- ✔ コンフォーマブル/ウェアラブル・ディスプレイ (2022年度初)
- ✔ ディスプレイ用機械学習

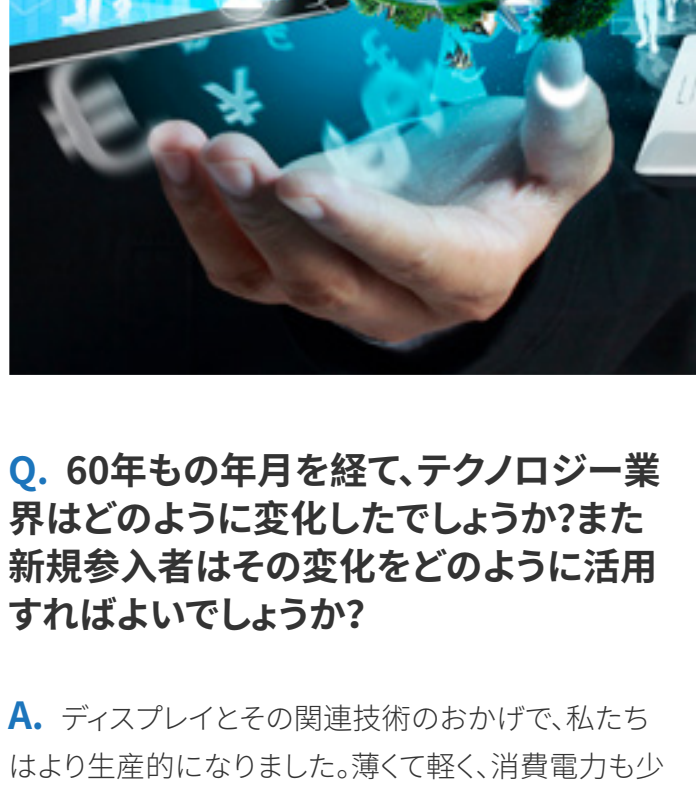
ディスプレイウィークは、電子ディスプレイと視覚情報技術の目覚ましい発展のプラットフォームです。自分の目で確かめられる絶好の機会をお見逃しなく!今すぐ[参加申込](#)を!

展示される皆さまへ、

今からでもディスプレイウィーク2022への参加申込はまだ間に合います!昨年度はパナソニック全体から10,000人以上のお祝いのご集まりを期待しています。

ディスプレイウィークは、参加される皆様への期待に応えるべく多様な機会やイベントを用意しています。例えばエキシビジョン・フォーラムでは、大勢が集まる会場を避け、あなたの商品に十分な焦点を当てたプレゼンを披露することができ、世界中のメディアに向けてその商品を宣伝することもできます。

電子ディスプレイ業界が誇る一歩一歩に是非参加してはかたでしょうか。全ての企業を対象に、其々に合った展示オプションとイベントパッケージをご用意しています。詳細は当社の[Webサイト](#)をご覧ください。



Q. これらの成果は、私たちの日常生活にどのような影響を与えたのでしょうか?

A. 私たちは日常の至るところでディスプレイを目にします。ディスプレイなしの生活が考えられないくらいです。視覚的な生体である私たちは、常にディスプレイを必要としているのです。朝起きてから、時計や携帯電話のディスプレイを、車を運転するときは車内のディスプレイでナビゲーションを、仕事中はノートパソコンのディスプレイの前で作業をしていくまで、映画やスポーツ観戦、読書までもディスプレイを使用するようにになりました。VRヘッドセットを使ってどのような体験を堪能することもできます。世界中のメディアに向けてその商品を宣伝することもできます。

携帯電話やタブレット、ノートパソコンに搭載されたディスプレイによって、私たちは情報を手にすることができるようになりました。

我々がニューヨークのeMagin社で製造しているようなマイクロディスプレイは、VRユーザーへ没入感に富んだアプリケーションを提供するため、軍事、医療、工業用アプリケーションなど多様な応用が可能です。軍隊では兵士の安全を守るために、医療情報ディスプレイは我々の健康を維持するために、テレビやサイネージ・ディスプレイは私たちに情報を提供するために使用されます。また、VRが搭載されたヘルメットを装着するバイロッドは膨大なデータを一目で把握することができ、医師はディスプレイを使うことで病気の状態や治療経路をより簡単かつ正確に把握することができるようになりました。



Q. 2022年および今後3~5年のディスプレイ業界の動向として、最も重要なものは何だとお考えですか?

A. ディスプレイ技術はあらゆる側面でも向上してきています。世界最高レベルの有機OLEDを発売されたばかりですが、応答速度や低消費電力化における改善など、同様の新技術の発表が相次いでいると考えられます。ARメタ眼鏡はディスプレイ技術の向上により更なる日常化が見込まれます。ディスプレイはウェアラブルから全体を覆うものまで浸透化が進み、ARは我々の生活を向上させる貴重なツールとして進化し、青りんごやTADPOによってOLEDがさらなる発展を見るでしょう。また、ディスプレイは、今以上に向上していき、より多くのアプリケーションが要求されるようになっていきました。また、過去60年間と同様に、VRが搭載されたヘルメットを装着するバイロッドは膨大なデータを一目で把握することができ、医師はディスプレイを使うことで病気の状態や治療経路をより簡単かつ正確に把握することができるようになりました。

今日の新規参入者は、米国、欧州、日本、インドなどの国内ファンドを活用できるため、地政学的なハードルを乗り越えて、彼らに最適な場所をディスプレイ会社を設立することができると考えられます。過去20年間はこのような機会はありませんでした。グローバルな人材確保とリモートワークが可能になったことで、リソースはより豊富になり、近隣の大学に人材面で取組む必要もなくなったのです。SIDのような組織は、新規参入者が素早く学び、素早くテクノロジーへのアクセスを手に入れ、環境維持を並行して、人脈と関係を構築して、より早く成功に到達できるように尽力しています。

スカーリー氏はDisplayWeek2019のCEOフォーラムに参加して、この業界のビジョナリーたちと共に個人的な旅路や専門的な洞察を共有しました。[その様子はこちらからご覧ください。](#)

サンノゼで開催されるDisplay Week 2022に今すぐ申し込み、今年のCEOフォーラムをはじめ、このグローバルイベントが提供する素晴らしい光景、音、機会を是非ご体験ください。



Andrew Skarley氏について

Andrew G. Skarley氏は、2008年6月よりeMagin社の最高経営責任者を務め、2009年からは同社の役員を兼任しています。2004年から2008年まで、スカーリー氏はKodak社のOLEDシステム事業部のジェラルド・マニエーラ氏と共同でフラットパネルディスプレイ製造業社との数々の提携を実現させました。

2001年から2004年まで、Kodakディスプレイ事業部のCFOを務めた。2003年から2006年までは、三洋電機とコダックの合併会社でアクティブマトリクス型有機LEDディスプレイを製造するSKディスプレイの取締役を務めた。1996年から2001年まで、日本コダック株式会社の業務部長、CFO、取締役を歴任。それ以前には、ディスプレイの製造メーカーとして戦略立案と財務を担当していました。カーネギーメロン大学でMBA、コーネル大学で物理学の修士号、ステイブンス工科大学で物理学の学士号取得。またコダック社に籍中にハーバード大学の国際上級管理職プログラムにも参加しています。

SIDとは
Society for Information Display (SID) は、電子ディスプレイおよび視覚情報技術産業に焦点を当てた唯一の専門団体です。業界、SIDは、電子ディスプレイと視覚情報技術の進歩に専念することにより、業界最高の新製品を紹介し、サービスの開発技術における業界コラボレーション、コミュニケーション、トレーニングのためのユニークなプラットフォームを提供します。この組織のメンバーは、ディスプレイの研究、設計、製造、アプリケーション、マーケティング、販売に関連する技術およびビジネス分野の専門家です。産業および学術技術の開発を促進し、ディスプレイの調査、設計、製造、アプリケーション、マーケティング、販売に関連する技術およびビジネス分野の専門家です。産業および学術技術の開発を促進し、ディスプレイの調査、設計、製造、アプリケーション、マーケティング、販売に関連する技術およびビジネス分野の専門家です。産業および学術技術の開発を促進し、ディスプレイの調査、設計、製造、アプリケーション、マーケティング、販売に関連する技術およびビジネス分野の専門家です。

SIDのグローバル本部は1475 S. Bascom Ave., Ste. 114, キャンベール, CA 95008, USA にて、[www.sid.org](#) にて。

SID | 1475 S. Bascom Ave. # 114
Campbell, CA 95008-4006 USA
(408) 879-3901

Privacy & Security | Terms & Conditions
You're receiving this email because you've signed up to receive updates on Sid. If you'd prefer not to receive updates, you can [unsubscribe](#).

FOLLOW US | [Facebook](#) | [LinkedIn](#) | [Twitter](#) | [YouTube](#)

© Copyright 2011-2022 SID - All rights reserved.

繋がりましょう!

#DisplayWeek2022 @DisplayWeek2022

[f](#) [in](#) [t](#) [v](#)

Display Week 2022 Sponsors

BOE

3M | CORNING | TCL CSOT | E Ink

AVIC Electronics | LG Display | Microsoft | MICROLED-info

OLED-info | PHOTONICS Spectra | RADIANT | SAMSUNG DISPLAY

TIANMA | ULVAC | UNIVERSAL DISPLAY | X display